

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

再生・新生・共生

高田ロータリークラブ
今年のスローガン

ロータリーを楽しもう！
夢と誇りをもって



2022-2023年度

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

第2560地区ガバナー 高橋 秀樹

高田ロータリー会長 高橋 正彦

幹事 飯塚 宏佳

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号

TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534

メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp

例会場：デュオ・セレッツ TEL(025)526-3111

広報・会報・雑誌委員会：

伴 長門・齋藤俊幸・藤林陽三・出澤英則

第 18 回例会 12月9日(金)

No.18

会長挨拶

●高橋正彦



皆さんこんにちは。

寒い日が続きますが、体調のほうはいかがでしょう。

暑い季節に「夏バテ」があるように、寒い季節に「冬バテ」が起きやすいそうです。

冬になると疲れやすくなったり気分が沈みやすくなったりする、そう感じているのならそれは気のせいではないかもしれません。「冬バテ」の可能性ががあります。

寒さにより体は熱を逃がさないようにするため、全身の血管が収縮します。すると血液によって運ばれる酸素や栄養分が十分に届かなかったり老廃物の回収が遅くなったり、また、寒いとガタガタ震えて小刻みに体を動かし続けると筋肉は疲労しますから、疲れの原因になってしまいます。そして、冬の日本海側は日照時間が短いため、精神的に落ち込みやすく、気分が沈みやすくなり「冬バテ」が起こりやすいそうです。

「冬バテ」の予防策としては、寒暖差をつけないよう工夫することが重要です。服装では寒さ対策をして、暑かったら脱げるようこまめに体温調節ができるような格好をするのも大切だと思います。自宅でも、室温を18℃以上、風呂場やトイレなどの温度差が生じないように工夫するのも大切なようです。そして、室内でできる軽い運動をして、筋肉のコリをほぐし日光にできるだけ浴びるよう心掛けてください。年末年始、慌ただしい時期です。健康管理をして体調を崩さないよう乗り切りましょう。

本日の卓話は、高田世界館 代表 岸田國昭様です。演題は高田のまちづくりです。ご清聴お願いします。

出席報告

出席率 97.96%

メイクアップ

高坂光一君：12/10-11 チームポリオジャパンセミナー

ニコニコBOX

熊田僚己君：今年度より新潟県商店街振興組合連合会青年部長を拝命いたしました。この度、12/12に本町4ビジットを会場に県青年部研究会をおこないます。活動を通じて地域活性化に取り組んでまいります。会員皆様からの御指導の程よろしく願います。

委員会報告

親睦委員会：12月の会員お誕生日 各お祝い



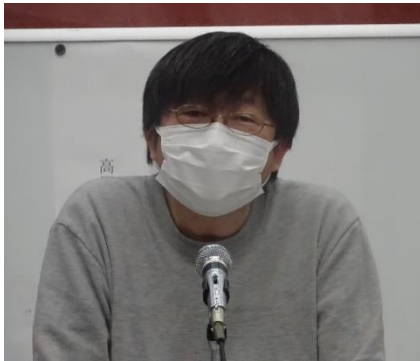
職業奉仕委員会：12/23 職場訪問～岩の原葡萄園～
のご案内

幹事報告

配布物：会報No.17、ロータリーの友 12月号
回覧物：国際大会 日本人親善朝食会

卓話

高田のまちづくり



株式会社高田広告舎プラステン 代表取締役/高田世界館 館長
岸田 國昭 様

今回、齋藤尚明さんにヘルプを頼まれやって参りました高田世界館代表の岸田です。
確か数年前にお世話になったのですが、齋藤さんにお問い合わせされると「NO」と言う返事はない高田高校暗黙の縦社会がありますので、喜んで伺いました。
とは言え、前回伺った際にお話ししたので、それ程お伝えすることも無いのですが、
せっかくの機会ですので、高田世界館の観光事業についての現在をお話いたします。

世界館は、映画館ですが、築111年と言う日本最の映画館という特殊な環境にあります。
それゆえ多くの映画関係者、映画マニア、歴史的建造物マニアの方が見学に訪れていました。
そのうちに、皆さんがSNSで発信した情報を、メディアが取り上げそれを見た観光事業者が興味を示し観光対象地となってきました。
現在は、その拡げるべく本日皆様にお届けした様な冊子とマップをセットにして観光交流推進課や観光コンベンションの皆さんと、首都圏に営業に伺っております。
とは言え、市長が通年観光を打ち上げた割には、行政も大きな変革を打ち出せるわけでもなく試行錯誤が続いております。そもそも、サッカーで言えば、ブラジルやアルゼンチンの様な強豪国のような京都、沖縄、北海道にかなうわけもなく、准強豪国のスイスやクロアチアのような金沢、長野の足元にも及ばないのが現状です。そんな強豪がひしめいている中で上越の実力は、いいところアジア予選リーグ1勝を目指すブータン位の實力くらいでしょうか。

そんな實力ない上越の世界館では、映画館見学の延長で高田こまち周辺の雁木巡りをやっています。
雁木は地元の人にはありふれた景観ですが、雪が珍しい関西のビジターにはウケが良い。喜んでもらえて世界館にもお金が落ちるこの見学コースは、この先もっと充実させて行きたいと思えます。
観光を盛り上げるには、自らにお金が落ちる人たちが必死に盛り上げ行くのが本来の姿だと思います。
観光客に来てもらうために土産屋さんをつくらうではなく、観光客が来だしたので、そこから儲をだそうと考える人が増えていけば少しずつ實力も付いてくるのだと思えます。

今世界館には少しずつですが観光客が集まっています。
これを、大谷ビジネスさんあたりがなんとか雁木町屋や小川未明生誕の地と結んで商売を広げてくださると益々實力が付いていくのではないのでしょうか。

こうした少しずつの挑戦を色々な商業関係者が自らの発展の為に始めだして観光事業は膨らんでいくので決して突然落下傘で降ってくるのでは無いと考えます。